

サマリー

急速な需要減退に直面する日本の石油精製業

計量分析ユニット需給分析・予測グループ 研究主幹 平井晴己

日本の石油需要は、ナフサ、ジェット燃料及びバンカー重油を除き、全ての需要が減少する典型的な右肩下がりの世界に突入した。石油精製のキャッシュフローが減少して行くことは避けられないであろうが、一方で、下記に示すような、石油精製の高度化に関する、多額の設備投資に直面する可能性も高い。

- (1) 石油精製のボトムレス化：重質油分解設備等の投入
- (2) 石油製品の高品質化：レギュラーガソリンのオクタン価向上
- (3) 地球温暖化対策：非化石燃料（特にバイオ燃料）の導入拡大

これまで、日本の石油産業は、中央、地方を問わず、全国的な供給ネットワークを整備して、国民の「ライフライン」として安定供給に努めて来ており、今後とも、その努力が期待されるのは間違いない。

民主党政権が9月16日に誕生した。CO₂削減に関する中期目標は上方修正される可能性が高い。日本の石油精製業は、まさに存亡を賭けた正念場にさしかかったと言えよう。

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp